



浅間山



可児市立東可児中学校
令和7年7月18日発行

あれから80回目の夏

校長 堀田 誠

2025年は、1945年からちょうど80年が経ちました。「日本に住んでいる以上、絶対忘れてはいけないことは、子ども達にその事実を伝えなければならない」という信念で、長く社会科教師を勤めてきました。校長となり、東可児中で3校目ですが、前任校、前前任校でも学校だよりに書きました。やはりどうしてもこの時期になるとこの話題を書きます。

右の写真は、今から約80年前に、アメリカの従軍カメラマンとして、戦後の長崎へ来たジョー・オダネル氏が撮影したものです。オダネル氏は、真珠湾攻撃を行った日本への復讐のために軍に志願しました。しかし、原爆が投下された長崎を目のあたりにして、彼の価値観が変わりました。象徴的なのは右の少年との出会いでした。少年は赤ちゃんをおぶっています。その赤ちゃんの命はありません。焼き場の大人に引き渡し、少しの間、歯を食いしばって眺めていたと言います。そのやるせなさ、悔しさをぐっとならしている姿が、この写真をみた人々に感銘を与えます。オダネル氏はこの写真を数十年、屋根裏に封印していたそうです。個人のカメラで撮影するのは軍律違反で、それは、アメリカは原爆投下を正当化していたからです。しかし、ある時、彼はこのパンドラの箱を開けたのです。「原爆投下は必要だったのか」と世の中の人々に訴えたのです。勿論、アメリカ国民からのバッシングで、彼の家に中傷の手紙が殺到します。しかし、一人だけが彼を擁護する人がいました。「オダネルを批判する前に、図書館へ行け」と、長崎で起こった事実を知るべきだと手紙を書いたのです。手紙の主は、オダネル氏の息子でした。オダネル氏は数年前の8月9日に亡くなり、彼の意志は息子に引き継がれています。

今年も、広島と長崎で慰霊祭が行われます。可児市でも、8月6日8:15、そして8月9日11:02に黙祷を捧げるサイレンが鳴ります。それは、原爆が投下された時刻です。毎年、恒例のようにサイレンが鳴り響きますが、平和の尊さ、そして命があるということに感謝しながらこの時間を過ごしたいと思います。

明日から41日間の夏休みです。271人の生徒が充実した夏休みを送ることができるように、ご家庭でもご支援・ご協力をお願いします。そして8月29日に元気な顔で再開できることを楽しみにしています。



生徒玄関前の白い日日草が
映えています



焼き場の前に立つ少年